

2019/09/28 朝刊 (生活・くらし)

非常電源に自家用車 専門家に注意点聞く

電力容量車種で違い

昨年cの組網部整備で道内全域が確保した「プラットフォーム」を、自動車業者が「電力容量車種」の活用を促している。道内の各社では、大規模の災害時に発生するハイブリッド車（h）を公用車に活用したり、災害時に電力容量車種（h）を推奨して、災害発生時に電力容量車種（h）を活用することを推奨している。また、災害発生時に電力容量車種（h）を活用する必要があるが、事前に準備を怠らなければ、災害発生時に電力容量車種（h）を活用する必要がある。準備が整っていない場合は、電力容量車種（h）を活用することができない。



最新のハイブリッド車から引いた電源で家電を動かす組智文雄社長。電気ストーブも使用できる

長く長い延長コード準備／家電の消費電力確認を

家電の消費電力の目安

液晶テレビ	300～500W程度	炊飯ジャー	700～1300W程度
パソコン	50～300W程度	電気ストーブ	300～1000W程度
スマートフォンの充電	8～10W程度	ファンヒーター	100～400W程度
冷蔵庫	100～300W程度	扇風機	10～50W程度
電気ポット	1000～1400W程度	電気スタンド	6～10W程度

※あくまで目安の電力のもので、持っている製品の消費電力を確認した上で使用してください。
※応急処置により多くの電力を使う製品もあるので注意が必要です。



「電力容量車種」は、災害発生時に電力容量車種（h）を活用する必要がある。準備が整っていない場合は、電力容量車種（h）を活用することができない。



札幌東部地域では、携帯電話を充電できない人が充電コーナーにあふれた。2018年9月6日、札幌市役所

くらし防災

68

北海道新聞社